



Title	歴史的市街地の保全と環境整備における景観施策に関する研究：韓国・北村地区における歴史的景観保全施策を事例として
Author(s)	権, 泰穆
Citation	大阪大学, 2007, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/48477
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	ゴン 權	テ 泰	モク 穆
博士の専攻分野の名称	博 士（工 学）		
学 位 記 番 号	第 2 1 2 3 1 号		
学 位 授 与 年 月 日	平成 19 年 3 月 23 日		
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 1 項該当 工学研究科地球総合工学専攻		
学 位 論 文 名	歴史的市街地の保全と環境整備における景観施策に関する研究－韓国・北村地区における歴史的景観保全施策を事例として－		
論 文 審 査 委 員	(主査) 助教授 小浦 久子 (副査) 教 授 鳴海 邦碩 教 授 大野 義照 教 授 奥 俊信 教 授 相良 和伸 教 授 横田 隆司 教 授 甲津 功夫 教 授 阿部 浩和 教 授 今井 克彦		

論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、韓国での歴史的市街地の景観保全施策に関して、景観保全にともなう身近な町並みや市街地環境の変化に着目し、景観保全と生活環境の変容の観点から考察したものである。韓国ソウル市の歴史的市街地である北村地区における景観保全施策を事例に、都心居住地における歴史的景観の保全施策の課題を分析し、地域環境の持続と景観保全の共存を図る施策について考察した。

第 1 章では、北村地区景観の歴史性について、市街地形成の経緯と現在における都市韓屋（以下、韓屋）の町並みの歴史性・伝統性について明らかにした。

第 2 章では、ソウル市の北村地区における景観保全施策の変遷について調査し、地域の反応や環境変化に対応して保全施策が変遷している実態を検証した。取り組み当初は、建築規制による韓屋の保存を図ったが、建て替え抑制への強い反発がおり、老朽化した韓屋が放置され保全は進まず環境が悪化した。そのため反発に対応して実施した規制緩和は急激な建物更新を引き起こし、市・住民ともに地域景観が失われる危機感を持つに至り、その結果、住民の意思にもとづく韓屋の修復・建て替えに対する助成・融資を基本にした韓屋登録制へ移行したことがわかった。

第 3 章では、韓屋が集中的に残る嘉会洞の 434 棟について現地調査を行い、北村地区の建物現況とその特徴についての分析を行った。地区内の 56.7%が韓屋様式であり、このうち 3 割は韓屋登録制の導入にあわせて示された整備ガイドラインに基づく韓屋であることがわかったが、新旧 2 タイプの韓屋の外観の構成には大きな違いがあり、韓屋の歴史性について検討する必要があることが示唆された。

第 4 章では、ヒアリング調査によると、韓屋居住の満足度は比較的高く、居住者は現在現れてきている景観を構成する外壁のデザインについては必ずしも歴史性を認識していないが、今後の地区景観のあり方として評価していることがわかった。北村地区の歴史的環境保全においては、内部の生活空間の近代化と外観の歴史性についての共通認識づくりが重要である。

第 5 章では、韓屋登録制の運用において位置づけられた「開放型韓屋」が居住地に混在することの課題について調査を行い、生活領域への来街者の増加、居住者の入れ替わり等の環境変化が発生していることから、韓屋保全と居住環境の持続が共存する計画的保全整備の必要があることを示した。

第6章では経済的観点から、また、第7章は地域整備の観点から、保全施策について検討し、北村地区における計画課題を考察した。

北村地区の事例検討から、都心居住市街地では、社会的・経済的影響を受けながら適切な施策の選択が求められるなかで、生活環境の改善とあわせた景観保全を検討する必要があることがわかった。短期的には、韓屋保全と生活環境の持続のための計画的対応が保全策に求められるが、長期的には、歴史性のとらえ方、保全の効果と居住の持続、地域の将来像など、多様な課題について協議調整できるしくみが必要である。

論文審査の結果の要旨

本研究は、韓国での歴史的市街地の景観保全施策に関して、景観保全施策による景観整備とともに発生している市街地環境の変化に着目し、歴史的景観の保全と地域生活環境の変容の望ましい共存のあり方について考察したものである。韓国ソウル市の歴史的市街地である北村地区における景観保全施策を事例に、都心居住地における歴史的景観の保全施策の課題を分析し、施策提案が試みられている。

第1、2章においては、韓屋が構成する市街地景観の歴史性の検討と、歴史的景観の保全施策の変遷について調査し、建築規制型の保全施策から、住民の意思にもとづく韓屋の修復・建て替えに対する助成・融資を基本にした韓屋登録制へ移行した経過とその要因を分析することにより、保全施策と地域生活者との相互関係を明らかにしている。

第3章では、現地調査により、北村地区の建物現況を把握し、現存する韓屋の地域的特徴および保存施策により修景されてきた韓屋の特徴を比較し、韓屋の歴史性および地域性についての問題点と検討課題を明らかにしている。

第4、5章では、現地調査および北村地区住民に対するヒアリング・アンケート調査により、韓屋居住の満足度、北村地区の景観についての評価と今後の景観整備のあり方、韓屋登録制の運用において位置づけられた「開放型韓屋」が居住地に混在することの課題をめぐる生活環境に関する認識について調査を行い、地区景観の歴史性について共通認識をつくっていくこと、韓屋保全と居住環境の持続が共存できるような計画的保全整備、が必要であることを示している。

第6章では経済的観点から、また、第7章は地域整備の観点から、既存の保全施策について検討し、北村地区における計画課題を考察している。

北村地区の事例検討から、大都市都心における居住市街地では、社会的・経済的影響を受けながら適切な施策の選択が求められるなかで、生活環境の改善とあわせた景観保全を検討する必要があることを実証的調査により示している。また、これに対応するために、短期的には、韓屋保全と生活環境の持続のための計画的対応が保全策に求められるが、長期的には、歴史性のとらえ方、保全の効果と居住の持続、地域の将来像など、多様な課題についての調整が必要であることを明らかにしている。

以上のように本論文は、歴史的市街地の景観保全にともなう市街地環境の変化に着目し、保全と地域環境整備を調整する施策の必要を実証的に明らかにしており、今後の景観保全計画の策定および運用管理における基礎的知見を提示しており、地域計画分野への寄与が大きいと判断される。

よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。